目次

第一章　「官僚たるものの心得」入門

「国会絶対」の行動様式　19
「お経読み」と「質問取り」　21
三権分立の本音と建て前　24
官僚絶対主義　27
質問想定問答集　29
国会答弁作りのコツ　32
国会答弁の「適切な言葉」　34
全員一致の民主主義　37
「君は僕にけんかを売っているのか」　38
お役所の序列　40
本省課長の絶大なる権限　42

「課内力学」の関係　44
出向人事のシステム　46
「縁」がつくるお役所情報網　48

第二章　「集団主義」のありがたき洗礼

まずは缶ビール　53
浴衣（ゆかた）と赤いセーター　56
「飲め飲め」　60
仕事の延長　62
狂態と無礼講　63
「ムラ」への同化　65
男尊女卑　66
「ポルノ部屋」　68
集団トレーニング　70
無言の圧力　72

「ひとりだけでは悪いから」 77

第三章　予算編成という「儀式」

フリートーキング 81
「仕事と私事、どちらが大切か」 85
予算の本質 88
社会的緊急性と外圧 89
出世の道 92
現状維持の権化（ごんげ）たち 94
合議制という決裁方法 97
先例、そして過去の事例 99
限りない妥協 102
お祭り騒ぎ 103
「冬の予算学校」の一体感 104
復活折衝 105

第四章　「霞が関ムラ」の妬（ねた）みの発想

一四日間の休暇申請　109
「水さかずき」の世界　110
「海外旅行申請許可願」　111
最初のひとり　113
事後提出　115
「前例がない」　118
法事のため　120
権利か、義務か　121
貧困なる人生観　125
「横並び」の発想　128
「休日出勤」という踏絵　130
サービス残業　131
「苦役」か「善」か　133

第五章　「役人は役者であれ」論

「大人の文体で」　139
「現状認識が甘い」　141
「仁義とメンツの問題なのだ」　143
自分の性格が火に油をそそぐ結果に　145
個人が責任を問われないシステム　148
嘘を許容する日本流配慮　150
「役人の美徳」　151
「内容などはどうでもよいのだ」　153
外国人はいつまでたってもガイジンの国　156

第六章　マゾヒスト役人の「いじめ」の心理

「宮本なんかとつきあうな」　163

入省早々、「いじめ」で不眠症に　164
知らないこともきけない雰囲気　167
「みんなと違うことはいけないこと」　170
御用達マゾヒストたち　171
他人の七転八倒を楽しんで　174
「うまい英語」は「いじめ」の対象　175
「みんなと同じ格好をするように」　178
目には目を　179
全員が「いじめ」を楽しんでいるわけではない　183
欧米では異常心理のひとつとされる　184
犯罪者扱いをうけるのは当たり前　187
「いじめ」撃退のノウハウ　187

第七章　お役所の掟「三大原則」の理由

社歌と国歌　193

「掟」と「もたれ合い」 196
「遅れず」 197
「休まず」 198
「仕事せず」 201
「先輩の仕事に異を唱えない」 202
「先憂後楽」と「倒錯」の世界 205
「汗をかく」、「足を運ぶ」 208
他よりすぐることなかれ 212
ムラ社会の教義と寛容の思想 215
男性はよくて、女性はだめという規則 218
「曖昧さ」と「大人である」 219

第八章 「掟破り」の運命やいかに

フランス大使館からの招待 225
お役所の奥義 226

差別と悪平等　231
制御された「ざわめき」　234
論議のキャッチボール　236
「自由な女」たち　238
ロカール首相の言葉　240
「出すぎた杭（くい）は抜いてしまえ」　242
あとがき　244